

中2自殺、いじめ原因

父親「無念でならない」

第三報
新潟県新発田市で昨

年6月、市立中2年の男子生徒(当時13)がいじめを訴えて自殺した問題で、市教育委員会の第三者委員会は5日、「原因はいじめにあると推定できる」との報告書を市教委に提出した。報告書は生徒が周囲にあだ名で呼ばれるなどの問題を把握しながら深刻ないじめと認識せず、相談を受けても生徒の保護者に伝えなかった学校側の対応を問題点として指摘した。

市教委から報告書を受け取り、新潟市内で記者会見した父親は「多くの生徒からいじめを受けていたこと、担任を含む複数の先生が事態を見逃してしまっていたことが分かる。無念でならない」と語った。

名で呼ばれるなど一方だ」とした。再発防止には、生徒的变化に気付いた教員が同僚に伝え、保護者に積極的に情報提供する必要があると指摘。学校側には教員の数を増やして1人当たりの業務量を減らし、生徒と向き合う時間を確保するよう求めた。新発田市の山田亮一教育長は「いじめの未然防止に取り組めなかったことをおわびする」と述べた。

中2自殺「いじめと推定」

新潟・第三者委 複数教員把握 共有せず

新潟県新発田市で2017年6月、市立中学2年の男子生徒(当時13歳)が自殺した問題で、市教育委員会の第三者委員会は5日、「自殺の原因はいじめにあると推定できる」とする調査報告書を同教委へ提出した。生徒が、あだ名で呼ばれていることなどを複数の教員が把握しながら、組織的に共有していなかった学

校の対応について「背景にある事情の調査を行わず、いじめを見逃した」と指摘した。

報告書によると、男子生徒は1年生だった16年秋頃から複数の男女の生徒に不愉快なあだ名で呼ばれたり、悪口を言われたりするようになった。

男子生徒は17年4月以降、担任を含む複数の教員

に相談したが、教員らは深刻に捉えず、保護者にも伝えていなかった。男子生徒は同年6月25日、自宅の作業小屋で首をつった状態で見つかった。

報告書の内容の説明を受けて記者会見した男子生徒の父親は「調査で分かった事実が多く、驚きと悔しさがある。無念でならない」と語った。